



飯能ロータリークラブ会報



唐竹晩秋 Karatake in late autumn

© photo by Isao Yoshida

ロータリーは機会の扉を開く

RI会長 ホルガー・クナーク

2570地区ガバナー 相原茂吉

第3グループ
ガバナー補佐 西澤長次

Let's make fellows! 友達をつくろう

第2925例会 2020. 9. 9

—— 基本的教育と識字率向上月間 ——

天候 晴 (NO. 57-11)

会長 田辺 實 幹事 森 健二

例会日 水曜日(12:30~13:30) 当番 森田君、中里(昌)君

例会場: ホテル・ヘリテージ飯能sta.

☎(042)975-1313 〒357-0038 飯能市仲町11-21

事務局: 飯能商工会議所内 〒357-0032 飯能市本町1-7

☎(042)973-1661 FAX(042)973-1662

http://www.hanno-rc.org/ E-mail: hannorc@hanno.jp

- ・点鐘 田辺会長
- ・ソング 我等の生業 四つのテスト
- ・ロータリーの目的唱和 森田職業奉仕委員
- ・卓話 増島宏徳会員

【会長報告】

本年度初めての卓話を増島先生にお願いしました。通常例会に戻ったなという感じですが、これもヘリテージさんの多大なご協力のお蔭です。御礼申し上げます。本日「ロータリーの目的」を配付。9/2 神田(康)委員長により国際奉仕委員会が開催、本年度検討事項が協議されました。各委員長におかれましては委員会開催をお願い申し上げます。

人間を高める6つの行。第1に布施。人に喜びを与える事である。人間を滅ぼす三毒五鈍使から人間を救うため、お釈迦様は6つの行をやりなさいと言われている。そうすれば人間の心を救う事が出来る。それが六波羅蜜。1番目が布施。人に喜びを与えていこうとするとそこに気づきが生まれる。いろいろな事に気づけると三毒五鈍使が起きない心になってくる。お金が無くても与える事は出来るとお釈迦様は言う。無財の七施:「眼施」優しい眼差しで人に接する。「和顔施」優しい和やかな顔で話をする。ニコニコ微笑んでいる人は素晴らしい。「あの人の顔を見たら心が晴れてきた」というのは施し。女性には特に必要。「言辞施」落ち込んでいる人を言葉で励ます。「身施」捨て身で人に尽くす。「心施」善意のまごころを施す。「床座施」席を譲る。「房舎施」人を一晩泊める。災害時の避難所と言ったところ。お坊さんから「布施が大事」と聞いたおばあさんが「病気ばかりで施せるものがなく、人に面倒を見てもらうばかりです」と言うと、お坊さんはこう言った。「そうか。しかし、あなたもいろいろな人にお世話になっているだろう。そのお世話になっている人に手を合わせて『有難うございます』と言いなさい。手を合わされたら世話をしている人の心の中にどれだけ喜びが湧いてくるか。それがあなたの場合『施し』になるのです。以上です。

【幹事報告】

先週の補足です。点鐘12:30、食事は12:50まで(食事に専念)。12:50~13:10例会・報告等、13:10~13:30卓話(イニシエーション・スピーチ)。この区分を目安にして下さい。食事時間について多々ご意見がりましたが試行錯誤しながらの運営となります。ご協力よろしくお願い致します。炉辺会合の日程変更は事務局まで(締切9/30)。財団補助金(106,450円)が入金されました。◎例会変更のお知らせ

◇新所沢RC

- ・9/29(火) 移動例会
- ・10/13(火) 市内4クラブ合同ガバナー公式訪問
- ・10/20(火) 振替休会(社会奉仕活動)
- ・11/3(火祝) 地区大会「ウエスタ川越」大ホール
- ・11/24(火) 振替休会(親睦ゴルフコンペ)

【委員会報告】

◎前年度幹事 中里(忠)君
前年度役員には「年次報告書」の校正を本日までお願い致します。

【出席報告】無届欠席0 神田(敬)出席向上委員長

会員数		当日		前々回修正 出席率
全数	対象	出席数	出席率	
68名	6名	62名	91.18%	83.82%

【M U】

9/3 (地区) 和泉君
9/8 (日高) 大野(泰)君

【ロータリーの友】

石倉雑誌委員
「9月号」横組P3、RI会長メッセージ。青少年交換プログラムでの体験を通じ、若者に、RCの仲間への「機会の扉」をくぐるようにするのが我々の務めではないか。P7~「基本的教育と識字率向上月間」の各RCの活動紹介。縦組P4~「ライブ

ネット生命」創業者、立命館アジア太平洋大学学長出口治明氏の記念講演。多様化する社会の中で個性的な人材が必要。P14、(日高)猪俣会員の俳句。P20～各RCの取り組みが紹介されています。

【SAA報告】

◎ニコニコBOX

・増島先生、卓話よろしくお願ひ致します。田辺君・早退します。 柏木君、杉田君、塩川君
本日計6,000円、累計額261,000円。
◎16日例会当番は中里(忠)、中山会員です。

【卓話】

講師紹介 新井会員選考委員長
ポール・ハリスを一番熟知されている、会員選考委員でもある増島先生に今回もお願いしました。

ポール・ハリスの生涯 その8

飯能RC 増島宏徳会員

「ロータリーの友」7月号掲載のコミックに違和感を覚えたので、早速電話して「友」の編集長と話しました。セシルは63歳、ポールは78歳まで生きており、早世したのはガイとクロードなのです。こういう小さな間違いを積み重ねていくと後々全然違う歴史認識になってしまう。「真実かどうか」です。そして“The Ideal of Service”。私は「ハリス」に反応してしまうのですが、米国・民主党副大統領候補、カマラ・デヴィ・ハリスはインド人の母とジャマイカ系米国人の間に生まれました。「母が教えてくれたのは“Service to Others”が人生に目的や意味を与えてくれるという事です」と彼女は言っています。ポール・ハリスは来日した時、“He profits most who serves best.”のprofitについて問われて、「profitはドルでもセントでもなく、人生のsomethingである」と答えました。これと職業奉仕を結び付けてしまった事に日本の大きな間違いがあったのかもしれませんが、つまり両者共に、人にサービスするという事は人生に目的等のsomethingを与えてくれると言っているのです。チェスリー・ペリーの言葉だと言われているのですが、「奉仕の理念」とは人を思いやり、助ける事が元だという事です。まさに今、RCが人道支援の団体となっている元です。英英辞典にも載っていますが、RCのServiceはhelpとかaid、助ける、支援する、尽くすという意味と同様にとらえらるると分かり易いと思います。

「ロータリーの目的」はもちろん“The Ideal of Service”が元になっていて、4つのうち2つにこの「奉仕の理念」という言葉が使われています。こういうものが今のRCの中心になっているのかなと思います。



私は医師会長もやっているのですが、どうしてもCOVID-19の事は話しておかなければいけないと思います。マスクはあなた自身を守るものではありません。他の人のためにするのはです。感染予防の点から言うと“Social distancing(「ディスタンス」ではない)”ですがそれを今“Physical distancing”に変えようとWHOが言っています。1～2m。「愛する人や家族との関係を社会的に断たなければならない」という意味で



はない。我々があえて物理的距離と言うのは、人々との繋がり引き続き保って欲しいと思うからだ。6フィートは1.83mです。そして、手洗い。眼からもウイルスがうつるので、細菌がついた手で顔をいじらない事。今後はCOVID-19もインフルエンザと同様に「ちょっと家に居て下さい」という程度になっていくかも知りません。ただ、高齢者や基礎疾患のある方は悪化しますから入院が必要になります。ニュージーランドのアーダーン首相が言っているのは「感染していると思って行動して下さい。そうすれば自ずと出来るだけ接触を制限するでしょう」という事。必ず専門家に聴き、毎日発表しているところもすごい。住民との信頼関係があるからこそ、ロックダウンも出来たのだと思います。異例のスピーチを行った英国のエリザベス女王は我慢の要請だけでなく最後にこう言いました。「友達とも家族とも一緒に居られるようになりませう。また会えますよ」。こういう事をちゃんと言ってくれるリーダーも居るのです。リーダーによらずいぶん違うと感じました。

RCが最初に贈ったのは「馬」でしたが、世界で初めての“Service Organization”となったのは、シカゴの「公衆トイレ」の設置からでした(1907年)。やったのはフレデリック・H・トゥイードとドナルド・M・カーター。RCは職業が関係する会では全然ない(1916年にはすでにビジネスクラブからサービスクラブに変わっていた)のに、日本のRCのリーダー達が職業奉仕に偏り過ぎたと言うか、間違ったRCが日本人に伝わってしまったのです。「職業奉仕はRCの看板」とは誰が言ったのでしょうか。「職業奉仕をしていて遅れました」などと言う人もいますが、それは職業奉仕ではなく、ただ自分の仕事をしてきただけです。

今は職業奉仕を上にするような考え方ではなく“Service above self”という事だと思います。高須クリニックの院長はフリーメーソンリーですが「助ける必要があると脊髄反射のように助けてしまおう」と言いました。人を助ける、まさにそれが自分を越えたサービスです。5つのサービスのうちの1つが職業奉仕“Vocational Service”で、それら5つのサービスを一緒にして今のRCは成り立っているわけです。「社会奉仕」も「青少年奉仕」もある。そういう事をやっていく、実践していくのが、RCなのです。

旅のはじまり。フランシス・ランディ・パットン、プリンストン大学第12代学長です。ポールはこの、母校の学長を妻ジーンと訪ねています。その時、元学長から「君のやっているロータリー・ムーブメントは素晴らしい」との大賛辞を受け、ポールは自信をもちます。ポールは面白い人なので私はずつと追っているのですが、そこで急に元気になり、世界を回っていく事になるわけです。

彼は米国本土から船(プレジデント・クーリッジ号)で、ハワイを回り横浜へとやって来ます。ベアブルースや後にマッカーサーも泊まった「ホテルニューグランド」に着いたのは1935年2月9日。小憩の後、東京駅へ。二重橋、明治神宮、帝国ホテル、芝公園、三越等回り、東京駅に着きます。ポールが植樹した月桂樹は、1935年2月9日から、帝国ホテルが解体される1967年10月までの、32年8か月の間、日比谷公園から見て左側の北側客室前の中庭の狭い片隅に植えてあったために枯死寸前となり、東京RC・矢野一郎によって神奈川県大井町に移植されました。

「世界は絶えず変化しています。私達は世界と共に変化する心構えがなければなりません。RCの物語は何度も何度も書き換えなければならないでしょう」。ポールの言葉です。